

平成 26 年度事業報告書

平成 26 年 8 月 1 日から平成 27 年 7 月 31 日まで

■ 第 9 期（平成 26 年度）の総括

第 9 期は、大きく 2 つの重点方針から事業を進めていった。

第一に、「市民活動推進プラザの再受託」への挑戦であった。ほんまち商店街に拠点を移してからの約 3 年間に培ってきた経験やネットワークを活かし、市民活動団体自身が主体となって、自分たちのまちのことを考え行動する仲間を見つける拠点づくりと事業を提案した。しかし、残念ながら力及ばず再受託することができなかった。

第二に、これまで培ってきたネットワークを活かし、相互に「まなびあう」ための場作りである。子ども対象であれば「まなびサタデースクール」などの体験学習が、大人対象は「居場所研究会」や「中堅スタッフ人材育成事業」などが当てはまる。これらに共通する背景は、参加者一人ひとりに何らかの力があることを信じ、相互作用（コミュニケーション）が生まれる場をデザインすることである。場作りはまだまだ十分とはいえないが、いくつかの事業の展開からそのきっかけが見つかりつつあったといえる。

また、前年度から取り組み始めた「まなびあ」の取り組みに最近注目が集まっている。「子どもの貧困」という潜在的課題に対し、地域のつながりを活かした子どもの居場所づくりを目指す取り組みは市内ではまだまだ珍しい。地域にさまざまなタイプの居場所ができ、それらがゆるやかにネットワークをつくることで、地域の子どもの貧困に向けた予防的取り組みが行えるものと考え、市内に啓発活動を行っていきたい。

経理面では、前年に引き続き黒字で終えることができた。調査研究や書類作成など、いくつかのまとまった委託業務が今年度もいただけたことが大きい。また、活動計算書上では表現していないが、日常活動やイベントへの「ボランティアの参画」が当団体には多く、日々の取り組みへの源泉となっている。しかし、ボランティアマネジメントもこれからの課題となってくることを見据え、限られたマンパワーの中でも役割分担の見直しが必要となってきた。

ほんまち事務所には週 2,3 日程度しかスタッフが常駐できなかったが、前年度に引き続きボランティアさんが毎週木曜日事務所を開放し、来訪者を受け入れてくださるようになり、その日をめがけて来訪される方も出てきている。また、ボランティアサークル「SSV 関西学院」をはじめとした学生や市内在住の若者が活動に参加してくれていることもあり、さまざまな創意工夫が活動にもたрасることができたと感じている。当団体に関わるのが楽しいと思ってもらえるような人を増やすためにも、多くの人の意見やアイデアを取り入れながら、誰もが訪れやすい団体づくりを目指したい。

■ 特定非営利活動に係る事業の実施について

1. 市民活動や運営に関する相談事業 (収益 H25 : 187 千円、実績 : 243 千円)

市民活動に関する幅広い相談支援を実施。ひょうごボランティア基金の助成を受け、相談料は半額の 1 回 1,000 円（初回無料）で実施。日時・場所は団体の希望にあわせて対応した。

1.1. 市民活動団体・法人設立支援

市民活動団体や NPO 法人設立を希望する団体を支援。主に、申請書類作成や運営にかかる組織体制づくり、事業計画・報告書作成支援、会計・労務・登記に関するアドバイスをした。

(主な実績)

- 新規設立法人はなし

1.2. 団体運営・マネジメント支援

事業企画の立案や継続、運営体制のあり方についてのアドバイス、NPO 関連の制度や事例、助成金等の情報提供、広報の相談支援、人材のコーディネートを実施した。

(主な実績)

- 一般社団法人 office ドーナツトーク (大阪市)
- NPO 法人日本スピリチュアルケアワーカー協会 (大阪市)

1.3. 事務作業支援

主に NPO 法人の会計・労務等の事務作業支援を行っている。

(主な実績) -

- NPO 法人言語障害者の社会参加を支援する会しゃべろーよ : 会計事務支援

2. 市民活動に資するネットワーク形成事業 (収益 H25 : 167 千円、実績 : 151 千円)

2.1. まちなか交流企画

(1) まちカフェ

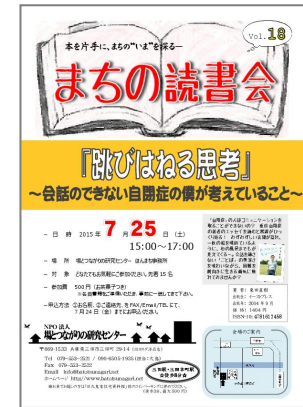
毎月1回、全12回開催。大島がコーディネータを担当し、特にテーマを決めずにざっくばらんな会話を楽しむ時間を提供した。ここでの参加メンバーが、まつりイベント等での出店やさまざまな活動でのボランティアとして活躍して下さった。

また、7.1(1)居場所研究会事業は、まちなか交流企画事業実施の経験から、地域の「居場所の孤立化」を防ぐための活動支援事業として実施している。



(2) まちの読書会

奇数月の第2土曜日を中心に、計6回開催。参加者は読んでいなくても参加可能という設定で開催。書籍の選択は、事務局だけでなく参加者から書籍や著者の提案をいただくことができたこともあり、さまざまなジャンルの本を選んで実施した。



(実施状況)

実施日	書籍名 (出版年)	著者
2014年9月13日	中国化する日本 (2014)	與那覇潤
2014年11月8日	限界集落の真実～過疎の村お消えるか? (2012)	山下祐介
2015年1月10日	大人の発達障害～うまく生きる、うまく活かす (2014)	田中康雄、笹森理絵
2015年3月14日	1%の力 (2014)	鎌田實
2015年5月30日	わかりあえないことから (2012)	平田オリザ
2015年7月25日	跳びはねる思考～会話のできない自閉症の僕が考えていること (2014)	東田直樹

2.2. 夏まつり (三田まつり) / 冬まつり (あきんどまつり) での店頭販売

夏と冬の商店街でのイベントに、商店街の一員として参加。事務所前にて、夏はわた菓子、どじょうすくい他を、冬はわた菓子、焼き芋を販売した。リピーター率も高く、我々の店舗として定着しつつある。どじょうは、東畑肇さん (NPO 法人縁農ネット理事長、広野在住) の協力得て、減農薬の田んぼからすくっている。

当日の運営は日常的な関係者に加え、この日のために集まるメンバーも数人いて、賑やかに開催している。

2.3. シェアオフィス・コワーキング

ほんまち事務所を他団体とシェアし、その家賃収益を計上。これまでの三田市文化協会に加え、2015年4月より三田親と子の劇場が新規入居した。

事務所資源の共同活用については、三田・九条の会が定例会の会場としてほんまち事務所を利用している。

2.4. 三田まちの寺子屋「まなびあ」の運営

地域の子どもを地域で支える仕組みづくりを目指し、生活困窮家庭・ひとり親家庭のこどもや不登校児者の学校外教育の提供を目的に、地域住民と協働で平成25年8月に立ち上げ。共働き家庭をはじめとしたすべての子どもの、放課後の居場所づくりなどにもテーマを拡大し、運営している。

(スタッフ)

子どもたちの学習支援を行う「まなびサポーター」には、事務局および三田在住の20-30代メンバーが中心スタッフとなり、一般市民、ボランティアサークル「SSV 関西学院」のメンバーを巻き込みながら運営している。月1回程度の定例会を開催。

(広報)

運営委員の大東真弓さん(三田小学校区学校支援ボランティアコーディネーターほか)の協力のもと、三田小学校・三輪小学校・武庫小学校にチラシを配布した。また、関心を持つスクールカウンセラーから問い合わせをいただき、利用したい子どもの紹介をいただくこともあった。

(費用)

初動費用には、独立行政法人福祉医療機構の平成25年度助成金を活用。平成26年度はボランティアによる運営を続けてきたが、平成27年4月より公益財団法人ベネッセこども基金の助成を受け、事業を展開している。平成28年4月以降の財源としては、gooddo社によるクリック募金(2,500円/週≒120,000円/年)に加え、地域からの資金(寄付金、協賛金等)を集めて運営していくことを考えている。

	開設時～	平成26年4月～	平成26年7月～
実施日	水曜 15:30～18:30 土曜 13:30～16:30	水曜 15:30～18:30 金曜 //	
場 所	三田ほんまち交流館「縁」		三田小学校区県民交流広場「じばやんクラブ」
利用者数	小学生～高卒生 平均4人	小学生～高卒生 平均3人	小学生～高卒生 平均7人

3. 市民活動に資する人材育成事業 (収益 H25 : 49 千円、実績 : 262 千円)

3.1. 自主セミナー開催

(1) 「まなびサタデースクール」開催

三田まちの寺子屋「まなびあ」から派生した事業で、毎月1回、子どもたちのさまざまな「まなび」を促すための企画を実施した。当団体の人材ネットワークや経験値を次活用して、SSV 関西学院のメンバーが主に企画立案を担った。

実施日	テーマ	会場	参加人数
8月21日	わくわく WORK ～商店街で学ぶ1日お仕事体験	本町通商店街	20人
9月15日	お月見大作戦	まちづくり協働センター	13人
10月18日	ミニピザ一日マスター	まちづくり協働センター	8人
11月8日	秋の味覚狩り in わくわく畑	関西学院大学神戸三田キャンパス	11人
12月21日	魔法使いのクリスマス	まちづくり協働センター	9人
2月1日	SNS～そうだ、のり巻き、しないとね	まちづくり協働センター	15人
3月1日	N-1 グランプリ	まちづくり協働センター	6人
4月2日	世界一周ボードゲームの旅	三田小学校	6人
4月26日	妖精探索スタンプラリー	有馬富士公園	9人
5月9日	運動会の星	関西学院大学神戸三田キャンパス	15人
6月14日	30秒クリエイターズ	三田小学校	7人
7月12日	なぞなぞ運動会	三田小学校	12人

(2) 「企画づくりセミナー」開催

2月28日および3月7日の2回連続セミナーとして開催し、のべ18名が参加。①

①企画倒れにならない事業づくりのコツ～なるべく細かく、シンプルに～、②予算書づくりのコツ～何を積み上げるべきか、きちんと考えよう～のテーマで開催した。

(3) 「みんなの会議術」開催

「脱・決まらない会議！ はじめてのファシリテーション」のテーマで3月22日に開催し、9名が参加した。

(4) 「なぜ人材が育たないの？～スタッフが育つ、関わり方を学ぶ4講～」開催

NPOで活動する中堅スタッフのバーンアウトを防ぎ、上司と部下の円滑なコミュニケーションを行うための講座を開催。講師に、社会福祉法人三翠会の前川嘉彦氏とNPO法人保育ネットワークミルク理事長の小泉雅子氏をお招きし、開催した。参加者数はのべ32人。平成27年度も引き続き開催する。

実施日	テーマ	ゲスト
3月1日	自分を知る、相手を知る	前川嘉彦氏
3月8日	本人が“気づく”を支援する	前川嘉彦氏
3月15日	人材育成の実際	小泉雅子氏
3月28日	明日から即実践！人材育成を考える	前川嘉彦氏

3.2. 委託セミナー開催

今年度は実施なし

3.3. 講師派遣

依頼を受けて下記の講座に講師を派遣した。

実施日	場所	内容	主催者
9月12日	三田市総合福祉保健センター	ボラメン・ボラガール養成講座 事例紹介	三田市ボランティア活動センター
11月5日	アスピーア明石	あかし楽講座「新しい社会のカタチ」地域のつながりを生み出すNPOの動きと可能性	明石市生涯学習課
12月2日	関西学院大学神戸三田キャンパス	三田のまちづくり活動の「今」（チャペルアワー）	関西学院大学総合政策学部
12月6日	神戸市500人委員会	子どもの貧困に向けた、地域のつながりによる解決	神戸市500人委員会
2月17日～	伊丹市立まちづくりプラザ	アフター6 NPO講座（全4回）	NPO法人阪神・智頭NPOセンター
2月24日 3月24日	ウッディタウン市民センター ／まちづくり協働センター	地域活動・ボランティア活動を長く続けていくための『おかねのはなし』	三田市市民活動推進プラザ
5月22日	甲南大学	NPOの多様な広がり「つながり」がもたらす可能性～兵庫県で活躍するNPOの事例を通して	甲南大学文学部 「NPO論」（帯谷）

4. 市民活動に関する情報発信事業（収益 H25：180 千円、実績：0 千円）

4.1. メールニュース発行

主に毎月 1 日、15 日にメールニュースを配信。当会の主催事業の案内に加え、助成金情報、地域イベント情報を無料で掲載している。現在 145 人に直接送付（前期末比 25 人増）、同内容を当団体ウェブページや地域 SNS「さんでい」、facebook サイトに掲載している。地域イベント情報は、当団体のボランティアである新納晃重氏が、毎回文字入力してくださっている。

5. まちづくりに資する地域情報化事業（収益 H25：0 千円、実績：0 千円）

今期は実施なし

6. まちづくりに資するコーディネーション事業

（収益 H25：843 千円、実績：516 千円）

6.1. 寄付付き商品プロジェクト「ハッピートライアングルプロジェクト」

三田市商工会が主催する寄付つき商品プロジェクトに、佐藤がコーディネータとしてプロジェクトの運営全般を担った（平成 25 年度より）。寄付先を三田市内の市民活動団体とした寄付付き商品を、地元商工業者が開発し販売することで、市民活動団体は資金獲得を、地元商工業者は知名度アップと新規顧客獲得を狙おうとするものである。これにより、地域も元気になり「三方良し」となることを目指して、「ハッピートライアングルプロジェクト」と名付けられている。参加団体は、平成 25 年度は市民活動団体－企業のペアが 10 組、平成 26 年度は 21 組であった（平成 26 年 10 月から平成 27 年 1 月末まで実施）。

また、本事業の取り組みは各地から注目を受けており、「NPO×企業 交流会 in 北播磨」にて事例発表を行った（平成 28 年 2 月 27 日）。



6.2. 商店街にぎわいづくり支援事業

地域コミュニティとしての商店街組織の、恒常的な集客力向上や販売力向上を目指したイベント等の事業を支援する助成金「平成 26 年度地域商店街活性化事業」への応募を検討する商店街に対し、場とつながりの研究センターが書類作成やイベント運営の支援を行った。昨年度に引き続き神戸市元町 5 丁目商店街の事業企画が採択され、佐藤がこれから事業の実施を支援した。

7. 市民活動及びまちづくりに関する調査研究事業

(収益 H25 : 282 千円、実績 : 127 千円)

7.1. 研究受託

(1) 居場所研究会

さまざまな困難を抱える人たちの集いの場としての「居場所」の運営のあり方について、さまざまな団体が集まって議論をする「居場所研究会」を実施した。

(実施状況)

実施日	テーマ	ゲスト
2月23日	地域に支えられる活動に向け、どのような取り組みが必要か？	安達典子氏 (放課後あそぼう会)
2月25日	社会のニーズに応える、「考える人材」をどう育てる？	久後恵美子氏 (生涯学習サポート兵庫)
3月17日	やり場のない思いをホッと吐き出せる、笑い合える仲間づくり	北村吉次氏 (男性介護者の会ぼちぼち野郎)
3月18日	移住者も既住者もどんとこい！ 地域のゆるやかな仲間づくり	森田和夫氏 (篠山で楽しく暮らし隊)
3月23日	まちの企業から見た、地域団体との連携とは	吉田智計氏 (株)吉田木材)
3月25日	まちの“課題”に、まちの力を集める！ 支援性財源の集め方	小泉雅子氏 (保育ネットワークミルク)
3月28日	居場所シンポジウム「つながりの現場に迫る ーつながる KYOTO プロジェクトの活動事例を通じてー	平本 毅 氏 (つながる KYOTO プロジェクト)

7.2. 市民調査支援

(1) ゆりのき台まちづくり住民調査

地域住民を対象としたまちづくりに関する意識調査の作成および分析業務を、ゆりのき台まちづくり協議会準備委員会から委託を受けて実施した。

■ 管理および法人運営部門

1. 会員の状況 (収益 H25 : 75 千円、実績 : 81 千円)

正会員は、期初時点で 22 名であったが今期で 2 名の入会があり、現在の正会員数は 24 名である。会員の多くはこれまでの当会のスタッフに加え、地域のつながりづくりに関心あるメンバーの参加が増えつつある。賛助会員は、3 名・団体であった。賛助会員の拡大を今期の重点課題として取り組みたい。

2. 寄附の状況 (収益 H25 : 682 千円、実績 : 338 千円)

寄付額は前期の額には及ばなかったが、今期も収益の約 10% を占めるなど法人運営の土台となりつつある。今後の活動に充ててほしいと活動謝金をそのまま寄付して下さった方も多くいらしかった。

3. 会議に関する事項

	日 時	会場	備 考
総 会	2014 年 9 月 21 日	三田ほんまち交流館「縁」	通常総会
理 事 会	2014 年 9 月 12 日	ほんまち事務所	
	2014 年 11 月 14 日	〃	
	2015 年 1 月 23 日	〃	
	2014 年 3 月 4 日	〃	
	2014 年 6 月 9 日	〃	

※これとは別に、市民活動推進プラザ受託応募に際しての検討会議を 2 回開催した。

■ これまでの業績推移

	収入	経常収支差額	主な事業等
平成 18 年度	6,192,761	△960,814	市民活動推進プラザ運営
平成 19 年度	9,339,984	137,083	地域 SNS「さんでい」立ち上げ
平成 20 年度	17,329,561	△347,523	総務省「地方の元気再生事業」
平成 21 年度	17,053,023	66,850	
平成 22 年度	49,197,634	△2,257,061	総務省「地域 ICT 利活用広域連携事業」。他、3 つの緊急雇用事業
平成 23 年度	20,208,730	△961,253	市民活動推進プラザ、受託終了
平成 24 年度	5,412,920	△1,222,338	ひょうごコミュニティ財団設立支援
平成 25 年度	4,823,671	407,254	居場所研究会、まなびあ設立
平成 26 年度	3,470,315	630,174	中堅スタッフ育成、まなびサテライトスクール

以上